

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0221 NO100

校長 伊波喜一

花ぐもり 門出の前の 一ト月に ランチ共にし 語り食べなん

卒業を一ト月前にして、6年生と最後の会食をした。7テーブルにスペシャルランチを配膳し、会食の座でしばし、話に花が咲いた。6年前の入学式、この子達は当時の6年生に手を引かれて入場した。右も左も分からず、引かれた手のゆくままに歩んでいた。それから6年。今日は招待状からテーブルセッティング・調理員さんへの感謝の言葉まで、自分達で考え・行っていた。この子達がここまで成長できた陰には、教師達の情熱に加え、家庭の支えがあってのことである。ある企業経営者がこんなことを言っていた。「現代はスマホで何でも簡単に答えを見つけられる。それも、直ぐに。しかし、現実の社会では、答そのものが変わっていく。だから、答そのものを見つけることが大事なんじゃなくて、問うことや答の見つけ方を考えることが大事だ」。一つの会を成すには、自らの意思で知恵を絞り、手を打たなければならない。どれか一つ抜け落ちてても、会は成功しない。さり気なく進行していく会の水面下で、成功するよう気配りしてくれた子ども達の成長に、目頭が熱くなった。